

# はじめての 新CAT/ILL

新システムへの移行を考える図書館員のために

第2版



2001.2

文部科学省 国立情報学研究所

# はじめに

この冊子は、旧CAT/ILLシステムをお使いの図書館が新CAT/ILLシステムへ早期に移行するため、皆様方が図書館内での検討を進める上での参考としていただくためのものです。

新CAT/ILLシステムを理解していただくために、従来のシステムと新CAT/ILLシステムの違いや新CAT/ILLシステムへの移行手順などについて、先輩図書館員と新人図書館員との会話をとおして紹介していきます。

平成17年1月には、旧CAT/ILLシステムによるサービスは廃止します。各図書館での新システムへの移行に活用してください。

## 目次

1	なぜ新CAT/ILLシステムなの？	1
2	新CAT/ILLシステムの特徴は？	2
3	新CATクライアント	6
4	新ILLクライアント	10
5	新CAT/ILLシステムに関する資料	11
6	新CAT/ILLシステムへの移行	12

# なぜ新CAT/ILLシステムなの？

国立情報学研究所の目録所在情報サービスは、1984年の目録システム( NACSIS-CAT )の稼働をもってサービスを開始しました。現在は 850を超える図書館が参加し、5,000万件を超える所蔵データを有するまでに成長しました( 平成13年1月現在 )。

また NACSIS-CATにより作成された総合目録データベースを参照し、図書館間相互貸借サービスを支援するためのILLシステム( NACSIS-ILL )も1992年から稼働し、文献複写・現物貸借サービスの向上に大きな成果をあげています。

しかしながら システム自体が10年以上前のものであり、進化する計算機・ネットワーク環境にふさわしいものに刷新してゆかなければならない状況となりました。具体的には 計算機の高性能化、多様化に基づいたオープンシステムへの移行、標準的なネットワークとなったインターネットの採用、自由なソフトウェア設計のできるデータ通信プロトコルの開発などがあげられます。

国立情報学研究所では1997年から、これらに 対応した新CAT/ILLシステムのサービスを開始しています。

なぜ新しいシステムが必要なのですか？

新人

それをこれから詳しく説明するわね

先輩

## 目録所在情報サービスの歩み

年 月	内 容
1984.12( S.59 )	目録システム( NACSIS-CAT )の稼働
1992. 4( H.4 )	ILLシステム( NACSIS-ILL )の稼働
1997. 1( H.9 )	データベースとデータベース管理システムをサーバシステムへ移行
1997. 3	新CATシステムテスト用サーバを公開
1997. 11	新CATシステム業務用・教育用サーバを公開
1997. 12	新ILLシステムテスト用サーバを公開
1998. 4( H.10 )	新ILLシステム業務用・教育用サーバを公開 Webcatサービスの本運用開始
2000. 1( H.12 )	目録システムの多言語対応の実施

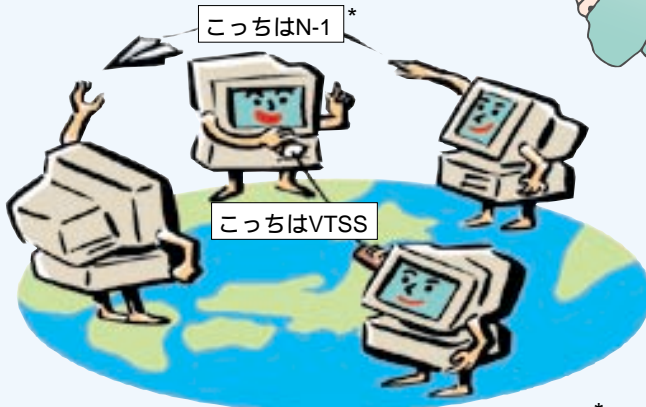
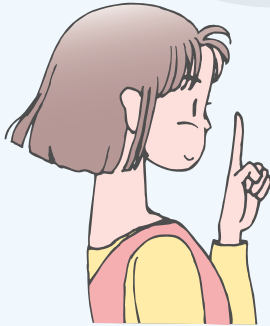
## (1)なぜ旧システムでは問題があるのでしょうか

## 旧CAT/ILL

旧CAT/ILLシステムは汎用機主体のシステム構成であり オープンシステムやインターネット環境への対応がしにくいものでした。また システム的に同時接続端末台数の制約がありました。

汎用機の制約で、  
これからの端末増加には  
対応できないのよ

旧来の通信方式は、  
メーカーもいつまでも  
サポートできない  
でしょうね



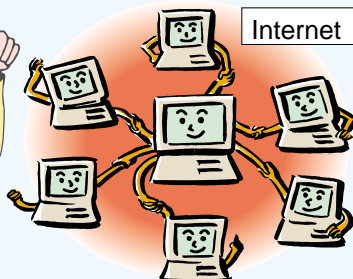
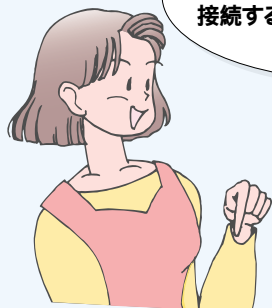
\*1999.12でサービスを終了

## 新CAT/ILL

新CAT/ILLシステムではオープンシステムやインターネットの環境に対応しやすくなりました。データ通信をするための専用プロトコル「CATP」を採用して利用者が常時接続する必要のない通信を可能としました。これにより同時接続台数の制限に柔軟に対応できます。

CATPIはWWWのようにデータの送受信の時だけ接続するので同時接続の制限が緩やかなのよ

インターネット接続なら、学内LANの環境を有効に活用できますね！管理も一元化でき、安心ですね！



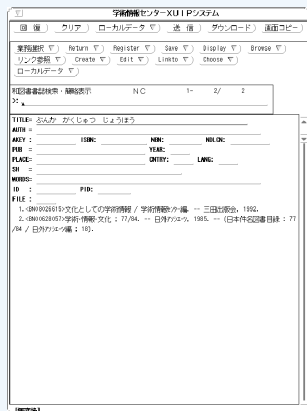
### 旧システムと新システムの比較表

項目	旧サービス	新サービス
プロトコル	N1-NVT/VTSS + APP	HTTP + CATP
通信方式	学術情報ネットワーク ( SINET パケット交換網 ) DDX-P, DDX-TP, INS64, Internet	Internet ( SINET 各種プロバイダを含む )
通信単位	仮想画面	レコード( 群 )
通信コード	NVT	JIS( EUC, SJIS, UCS )
ユーザインターフェース	プロトコルで固定	クライアントで自由作成
クライアントの種類	1種類	多種類のクライアントの作成が可能
サーバの役割	コマンド処理を含む アプリケーションサーバ	データベースサーバ

## (2) 新しいシステムを使うとどんな利点があるのでしょうか

### 旧CAT/ILL

旧CAT/ILLでは操作手順や画面の作りが決められておりそれを利用者側で変更することはできませんでした。これはデータ交換の単位が「仮想画面」と呼ばれる画面単位であり操作をするためのコマンドにはあらかじめ決められたものしか利用できなかったためです。

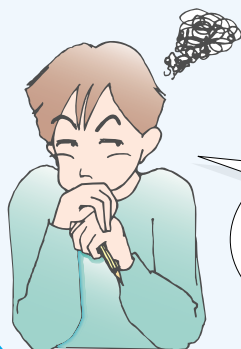


もっと見やすい画面にしたいと思っても、  
どうしようもなかったの



所蔵データを更新するためには、  
必ず  
書誌レコードを検索  
しなくてはならなかったのよ

所蔵レコードを  
直接検索できれば、  
自動修正プログラムも  
効率的に  
動かせるのに



それにいままでの  
検索キーだけでは、  
「Science」という雑誌の検索が  
うまくできないんですよね...

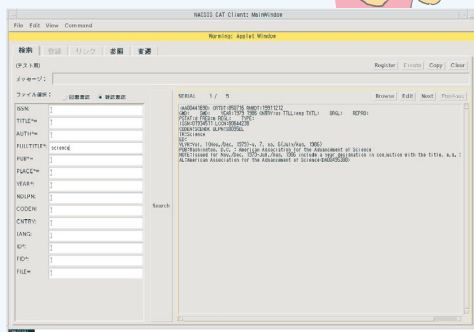
## 新CAT/ILL

これに対して新CAT/ILLシステムではCATPを採用することにより多様な操作とデータ交換を実現しています。これはデータ交換の単位が画面ではなくレコード群そのものであること 操作のためのコマンド( CATPではメソッドとよぶ )が組み合わせ自由であることによります。これにより 利用者側で様々な業務に利用が可能となります。

書誌レコードの  
先頭にタイトルが  
表示されていて、  
見やすくなったわ!



所蔵レコードだけを  
直接検索して、  
修正することもできるわ!



フィルタキーってのも  
便利ですね!  
「Science」も簡単に  
検索できますよ!

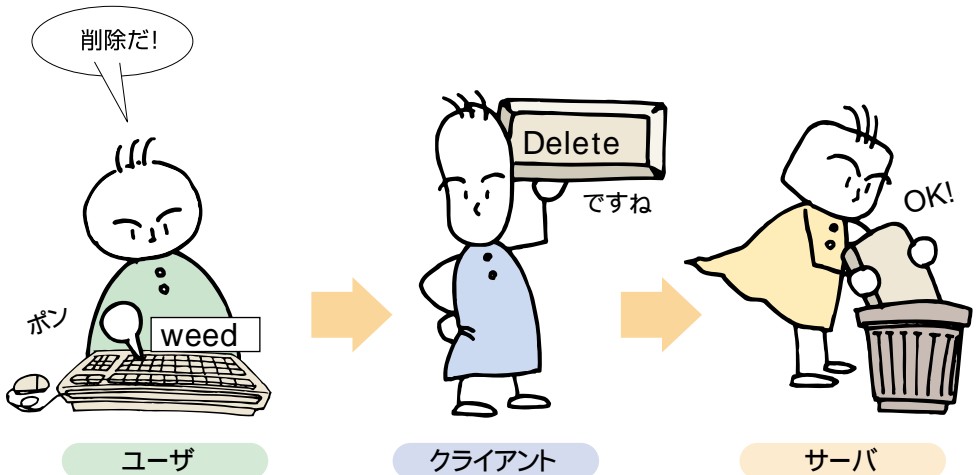
しかし NACSIS-CATの基本的な部分、つまり 共同分担方式で総合目録データベースを作成する仕組み、総合目録データベースにおける書誌構造やレコード間のリンクなどには変わりありません。

また NACSIS-ILLも同様で、状態を変えながら処理を進めていく方法、ILLレコードの記述内容などは、基本的には同様です。

ですから 操作方法さえ習得すれば、すぐに業務に利用することができます。

CATPを実際にあやつるのはクライアントです。旧CAT/ILLシステムでは「UIP」という呼び方をしていました。新システムにおいてクライアントはデータ通信をする上で次のような役割をはたします。

サーバとデータ通信を行う際はCATPメソッド(サーバに対するコマンド)を使用しなければなりません。例えば所蔵レコードの削除をする場合使用するCATPメソッドは「Delete」ですがそれはクライアントが翻訳することができます。利用者には従来のコマンドと同様の「Weed」あるいは「削除」というボタンを用意しておいて使わせることが可能です。これが、新CATシステムのメリットである「自由なクライアントが設計可能」であることの一例です。



サーバが送ってくるデータのうち画面上に表示するものあるいは画面上の配置などについても同様に自由に設定することが可能です。例えば繰り返しの多いVOLフィールドは別ウィンドウに表示するなどして書誌データを見やすくすることができます。またフィールド名を日本語で表示することもできます。

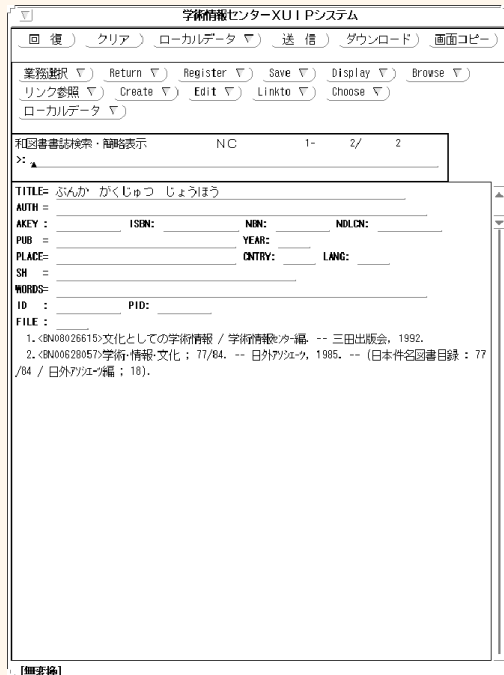
各図書館システムの中で必要に応じてNACSIS-CATを検索更新するような使い方をすれば新CATシステムに接続していることも意識する必要はありません。NACSIS-CATと一体化した受入・目録システムや検索システムの構築が可能となります。



新システムを利用するためには、このようなクライアントが必要です。通常は図書館システムのメーカーが開発したものを導入します。しかし、その図書館で独自のものを作成できるのが新システムの特徴の一つでもあるので、業務に合わせたクライアント仕様をメーカーに提示し、開発することも考えられます。もちろん、自館で開発することも可能です。

以下に、現在多く使用されているUIPと、すでにできている新CAT用のクライアントの例を紹介합니다。

### 従来のUIPの例



上の図が、これまで使ってきたCATシステムのUIPの画面です。画面に表示されるデータは、すべて同じレイアウトになっています。

また、メーカー毎に設定したボタンなど多少の違いはあっても、総合目録データベースのデータを操作するには、どのUIPでも同じコマンドを使います。

## 新CATクライアントの例

下は国立情報学研究所が開発した  
(講習会用の)新CATクライアントです



特徴は

汎用ブラウザがあれば、新CAT/ILLシステムを利用できます。

CATPの最新バージョンに対応しています。

多言語対応をしているので、中国語資料等の入力・表示が可能です。

コマンドを覚える必要がなく、操作方法が簡単です。

[図書雑誌検索] [著者名典拠検索] [統一書名典拠検索] [参加組織検索] [ログアウト]

### 図書書誌簡略一覧 (業務用サーバ)

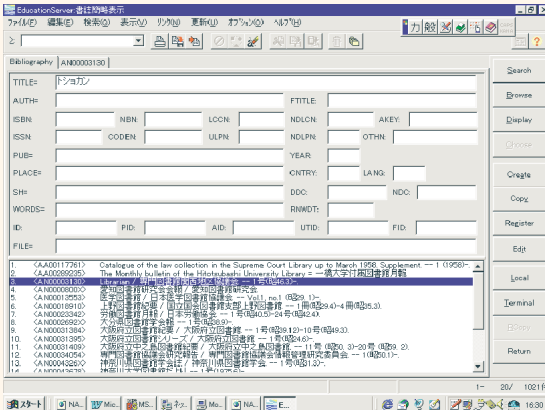
検索 クリア 新規 参照ファイル [和国書] 表示件数: [10] 件

TITLE= 中国 古代 哲学  
AUTH= \_\_\_\_\_  
ISBN: \_\_\_\_\_ NBN: \_\_\_\_\_ NDLCN/LCCN: \_\_\_\_\_  
PUB= \_\_\_\_\_ YEAR: \_\_\_\_\_  
PLACE= \_\_\_\_\_ CNTRY: \_\_\_\_\_ LANG: \_\_\_\_\_  
SH= \_\_\_\_\_  
FTITLE= \_\_\_\_\_ AKEY= \_\_\_\_\_  
ID: \_\_\_\_\_ PID: \_\_\_\_\_  
FILE: [BOOK] ▼

検索結果 18 件

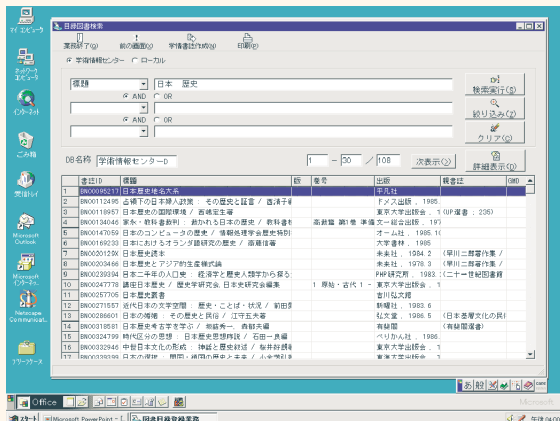
1. BOOK <BA31411579> 智慧の靈光 : 中国古代哲学 / 閔霽著. -- 人民日報出版社, 1995.1. -- (炎黃文化叢書 / 炎黃文化研究会宣傳委員會主編 ; 12).
2. BOOK <BA32883970> 中国古代哲学的邏輯發展 / 馮契著 ; 上, 中, 下. -- 華東師範大學出版社, 1997.1-1997.3. -- (馮契文集 / 馮契著 ; 第4卷-第6卷).
3. BOOK <BA335242542> 中國古代哲學與日本近代文化 / 徐水生著. -- 文津出版社, 1993.10. -- (大陸地區博士論文叢刊 ; 52).
4. BOOK <BA36335729> 古代中國の哲學 / 大塚伴麿著. -- 中文館書店, 1946.9. -- (東洋學藝叢刊 ; 第3).
5. BOOK <BA47302517> 中華的智慧 : 中国古代哲学思想精粹 / 张岱年主編, 方立天副主編 ; 程宜山等撰序. -- 上海人民出版社, 1989.12.
6. BOOK <BA47897276> 中國古代哲學論叢 / 文史哲雜誌編輯委員會編. -- 中華書局, 1957.9. -- (『文史哲』叢刊 ; 第1輯).

インターネット



上も下も国立情報学研究所作成のものとはほぼ同様の機能をもつクライアントでメーカー作成のものです。これらは 検索項目や検索対象ファイル 表示項目などが自由に設定できるようになっています。

また 各図書館システムの画面から直接総合目録データベースにアクセスできるシステムもあり この場合も 特に専用の画面がなくても 新CATクライアントであるといえます。



## 4 新ILLクライアント

新ILLクライアントの例

NACSIS ILL Client: Main Window

File Edit Command Card

Warnings: Applied Window

複写依頼 複写受付 貸借依頼 貸借受付 参加館情報

メッセージ:  
(テスト用)

実行

< > CRTDT: \_\_\_\_\_ RNWDT: \_\_\_\_\_

ODATE: 19981016 ADATE: \_\_\_\_\_ SDATE: \_\_\_\_\_ RDATE: \_\_\_\_\_

OMLID: \_\_\_\_\_ OMLNM: \_\_\_\_\_ ONO: 9900001 PRMT: 1

AMLID: \_\_\_\_\_ AMLNM: \_\_\_\_\_ ANO: \_\_\_\_\_

TYPE: 電子複写 SPVIA: \_\_\_\_\_

< W40003944 > BIBNT: Aslib proceedings

STDNO: 00012534

VLNO: 34 PAGE: 310-316 YEAR: 1988

ARTCL: Attitons L "National Policy"

HMLID: FA00205 HMLNM: \_\_\_\_\_ LOC: 00 VOL: 1

HMLID: FA00201 HMLNM: \_\_\_\_\_ LOC: 00 VOL: 1

HMLID: 34 HMLNM: \_\_\_\_\_ LOC: 1 VOL: 1

BVRFY: 1 HVRFY: NACSIS-04 BSFLG: 1

ACCT: 04 SUM: \_\_\_\_\_

ITEM: \_\_\_\_\_

UPRCE: \_\_\_\_\_ QNT: \_\_\_\_\_ CHRG: \_\_\_\_\_

上が国立情報学研究所で開発した新ILLクライアントで、下がメーカー作成のものです。国立情報学研究所で開発したものは主に講習会用で機能は現行のものと同様です。

メーカーで作成しているものには、学内からの依頼をメールで受け取りILLレコードを自動作成する機能や、新CATシステムと自由に行き来できる機能を持ったものがあります。

TestServer: 複写依頼詳細表示 (カレントファイル)

ファイル(F) 編集(E) 検索(Q) 表示(V) リンク(L) 更新(U) オプション(O) ヘルプ(H)

> | 印刷 | 戻る | 進む | 閉じる | 検索 | 設定 |

< New COPYO > 準備中 依頼館: KFA012943<学情社> 受付館:

ACCT: 04 TYPE: 電子複写 SPVIA: \_\_\_\_\_ PRMT: \_\_\_\_\_ ONO: 98-0001 ANO: \_\_\_\_\_

依頼内容 | 次館情報 | 追加処理 | 宛名: 担当 |

BIB<CA000139544>Aslib proceedings / Association of Special Libraries and Information Bureau:ISSN00012534> BIB  
VLNO:36 VLNO  
PAGE:310-312 PAGE  
YEAR:1988 YEAR  
ARTCL:National Information Policy ARTCL

HMLID: FA001641 回書式 LOC: \_\_\_\_\_ VOL: \_\_\_\_\_ OLN: \_\_\_\_\_ RGTN: \_\_\_\_\_

BVRFY: 1 HVRFY: NACSIS-CAT BSFLG: S

CLNT: 相互花子 CLNTP: 文字部依頼 IRUID: \_\_\_\_\_

形: 大きさ	単価	数量	小計金額	複写料	円	依頼日	19980929	送達日
1				基本料	円	受付日		追即日
2				送料	円	発送日		取即日
3				合計	円	到着日		
4								

式小:

新規入力 印刷 戻る 進む 閉じる 検索 設定

新目録所在情報システムのホームページで 新CAT/ILLシステムに関する資料を公開しています。ここでは、これまで行った説明会での配布資料や NACSIS-CAT/ILLニュースレター(旧オンライン・システムニュースレター)をはじめとする各種広報紙に掲載した文書も掲載しています。

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/newcat/index.html>

#### 新システムの概要を知りたい方には

##### ・「新目録所在情報システムとは」

これまで ニュースレターや 全国説明会などで配布した資料です。

#### 目録/ILL担当の方には

##### ・「利用申請」

既にCAT/ILLシステムの利用申請が済んでいる図書館であれば 簡単な連絡のみで新CAT/ILLシステムの利用を開始できます。これから参加なさる図書館の場合は 通常の利用申請があらかじめ必要です。

##### ・「新CAT/ILLシステム対応メーカー一覧」

国立情報学研究所で調査したリストです。随時更新していきます。詳細については それぞれのメーカーに直接お問い合わせください。

#### クライアントを作成する方には

##### ・「クライアントのためのガイドライン」

自由にクライアントが設計できるとはいえ 総合目録データベースのレコードの品質を守り サーバ側に過度の負荷をかけないものでなくてはなりません。それらクライアントが備えなければならない事項をまとめてあります。

##### ・「CATP仕様書」

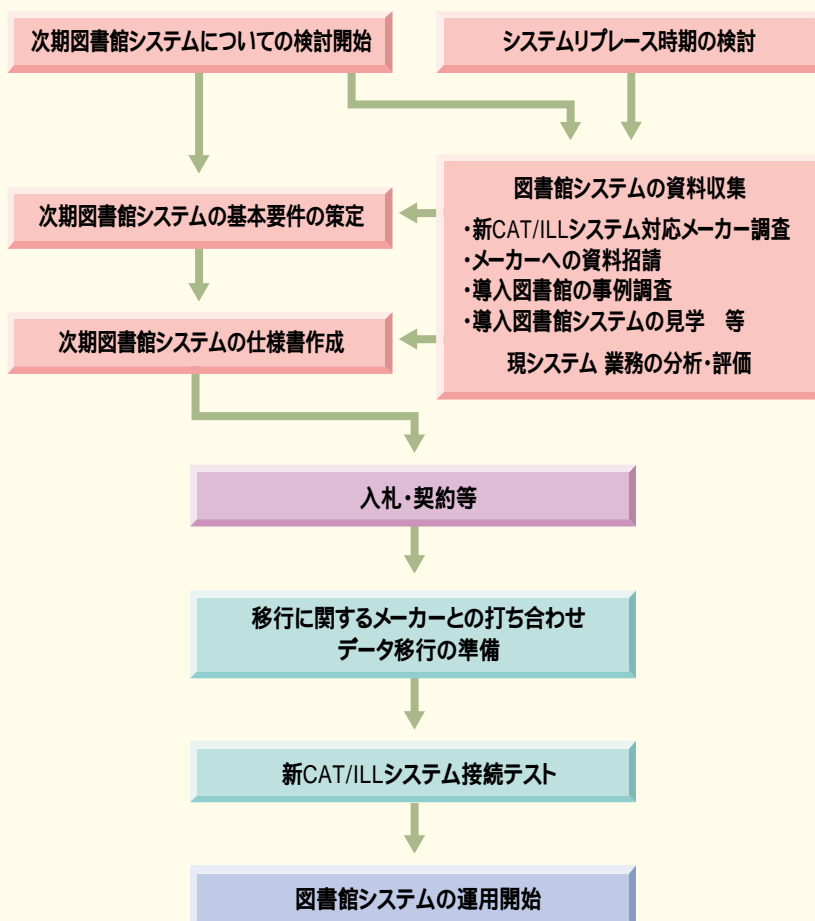
新CAT/ILLの専用プロトコルCATPの詳細を紹介しています。

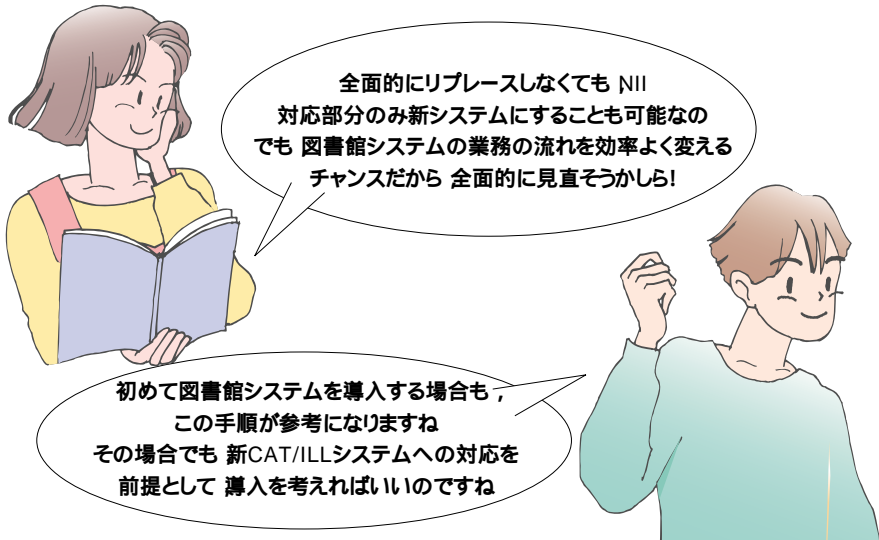
##### ・「新CAT/ILLシステムサーバ実装仕様」

データベース名の定義や フィールドの定義などはこの中にあります。

各図書館システムの新CAT/ILLシステムへの移行は 各図書館で策定する次期図書館システムの導入計画の中で検討を進める必要があります。

### 新CAT/ILLシステム移行手順(例)





新システムと現行システムは平成16年末までは併行運用します。その間 各図書館での新CAT/ILLシステムへの移行を進めていただき リプレース毎に現行システムの規模を縮小してゆきます。平成17年には 旧システムでのサービスは廃止します。

### 国立情報学研究所のオープンシステム移行計画

リプレース時期 (予定)	計算機		備 考
	汎用機	オープンシステム	
1996年( H.8 )1月～ ( オープンシステムへの 移行のためのシステム )	■	■	目録所在情報サービス ・ データベースのサーバ移行 ・ 新CATシステムの開発・サービスの開始 ・ 新CAT/ILLサービスの広報・普及( 対メーカー ユーザ ) ・ 新CAT/ILLへの移行状況調査 ・ 多言語対応システムの開発 ・ サービス時間の延長 通信手段 ・ NI接続の実態調査及び廃止
2000年( H.12 )1月～ ( オープンシステム化完 成のためのシステム )	■	■	目録所在情報サービス ・ 新CAT/ILLサービスの広報・普及( 対メーカー ユーザ ) ・ 新CAT/ILLへの移行状況調査 ・ 24時間運用 通信手段 ・ VTSS接続の実態調査及び廃止
2005年( H.17 )1月～ ( 完全オープンシステム )	■		



# NII

**お問い合わせ先:**

**文部科学省 国立情報学研究所**

**開発・事業部 コンテンツ課**

**〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2**

**TEL.03-4212-2355**

**FAX.03-4212-2375**

**E-mail:catadm@nii.ac.jp**